



日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)
《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男
一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2
TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171
メール: jaera-homepage@elv.or.jp H P: http://www.elv.or.jp/

広報部会インタビュー企画「我々の未来をどう創るか」第1回 自動車技術会 丸山慎一氏インタビュー

本年度の広報部会インタビュー企画として、今号より「我々の未来をどう創るか」というテーマでさまざまな分野でご活躍されている方々にお話を伺い、その内容をお送りしていこうと思います。(本年度・全4回予定) 第1回目となる今号では、自動車技術会リサイクル技術部門委員会より丸山慎一氏をお迎えして、現在の取り組みや我々リサイクル業者への提案などを伺いました。
[※インタビュー本文中敬称略]



—— 自動車技術会はどのような組織なのでしょうか？

丸山 自動車技術会（以下「自技会」）は公益社団法人です。さらにその中にリサイクル技術部門委員会があり、大学・官庁および企業・民間団体等の十数名で構成されています。

—— 具体的にどのような活動をされているのでしょうか？

丸山 自動車リサイクル技術に関して、外部専門家による講演および各種調査を行い、リサイクル技術の課題や将来動向をまとめ、その成果を自技会の学会等にて発表します。これらの活動を通して自技会の会員や関連技術者等へ各種提案を行い、自動車リサイクル技術の向上と発展に寄与することを目的として活動しています。

目次

巻頭言	1
広報部会インタビュー企画 「我々の未来をどう創るか」第1回 自技会丸山氏インタビュー	1
自動車リサイクル士	4
JIS開発事業	5
共同出荷事業	6
NAK・リ協との情報交換会	7
審議会関連検討会	7
中部・北陸全体会議	7
鉄スクラップ最新情報	8
行事予定・お知らせ	9
編集後記	9

巻頭言

先日、仕事でお世話になっている大先輩より突然電話をいただいた。何事かと出てみると、あの東日本大震災から5年目になろうとしているので、どうしているかということと、「今はどうなのかな」ということであつた。震災直後は全国からお金、物資と支援が被災地に多く集まった。それはそれで多くの人たちが助けられた。しかし5年も月日が流れるとそれらの数は少なくなり、話題にもならないくらい世の中の注目は移っている。被災地の復興を願わない人はいないだろうが、気持ちの中で「気にかける」だけではなく、それを声に出して他愛のないことでもいいから、直接言葉をかけることが被災者や被災地への一番嬉しい復興支援になると思う。

(広報部会 副部会長 田村 幸男)

丸山 ここ数年はマテリアルリサイクルに取り組んでおり、昨年からは「再生樹脂」を取り上げています。今年は5月25日横浜にて自技会フォーラム「採算のある自動車プラスチックリサイクルを目指す」を開催します。皆様の参加をお待ちしております。

フォーラムの詳細は↓をご確認ください。
<http://www.jsae.or.jp/2016haru/index.html>

—— ぜひ参加させていただきたいと思います。昨年「再生樹脂」を取り上げられているということですが、その点について詳しくお聞かせ願えますか？

丸山 自動車メーカーは、HVバッテリー回収・再資源化や銅・磁石等の資源循環活動に取り組んでいます。今回は、自技会の活動の中で「再生樹脂」について検証してみることになりました。ELV（廃車）からの樹脂部品回収や再生樹脂の自動車部品への活用等、各種の解を見出していこうという趣旨です。

—— 我々の業界では、まだ樹脂のリサイクルというものはなかなか浸透していないように感じます。その点はいかがでしょう？

丸山 そうですね。自動車メーカーの設計者に皆様の解体業務ビデオを見せると、配線やアルミなどは取り外されますが、樹脂は外されることなくプレスされている映像を見て「リサイクル設計はいらんのか」と残念そうな声も上がりました。設計者はモノを作るスタートラインにいる人間です。いろいろな制約条件の厳しい中で設計を行っています。その中でリサイクルをも考慮した設計を盛り込むことは確かに大変ですが、結果的にそれが皆様の仕事に役立つことができれば設計する側もやりがいを感じることもできるし、また、皆様の仕事も楽になります。そういった意味では動脈、静脈は一体型となって進めなければならないと考えます。

—— では、樹脂リサイクルは具体的にどのような手法で取り組むのがよいのでしょうか？

丸山 現状では、樹脂は、品質レベルに応じて何度も利用するカスケードリサイクルも含め、マテリアルリサイクルにふさわしい対象と考えます。私達は技術者という立場から、ひとつの仮説を立ててから取り組みを始めようと考えています。(7)

丸山 日本の樹脂リサイクル事情において、サーマルリサイクルはエネルギーリカバリーを行う立派なリサイクルとは認識していますが、やはり「サーマルよりはマテリアルが有利である」という仮説の中で、その仮説に基づいてアカデミックな理論武装をしていきたいと考えています。

今回のフォーラムの目玉は沖縄国際大学の木村先生の「マテリアルフローコスト会計」です。このシステムは、生産物をプラス、廃棄物処理をマイナスとカウントし、採算性を検討するものです。

—— 樹脂リサイクルのシステムフローについてはどのようにお考えですか？

丸山 皆様も昨今は大変厳しい市況であると思いますが、再生樹脂も原油安でバージン材と再生樹脂材の差が無くなってきており、再生樹脂メーカーも同様に厳しい状態にあります。そこで、取り組みの例としてですが、リサイクル料金の有効活用があります。

—— それについて何か具体的なアイデアはお持ちでしょうか？

丸山 日本のリサイクル法ではリサイクル料金の中に「ASR処理料金」が含まれており、回収・保管されています。廃車から解体・回収した樹脂部品を自動車に再利用するために、解体事業者・再生樹脂メーカー・自動車メーカーの三者が協力して再生樹脂活用のための活動に取り組みます。こうして活用した廃車からの樹脂部品により、ASRが減少し、ASR料金をこの活動の中にて使うことを考えています。自動車メーカーに経済的にも有利な材料が集まることは望ましいと考えます。



—— なるほど。ASR料金をうまく活用するということですね。

丸山 コストに見合えば当然、回収や取り外し意欲も湧くし、再生樹脂メーカーも自動車メーカーもバージンより安い価格で再生樹脂を購入することができます。それだけではなくASRを減らすことに繋がりますので、この仕組みが機能することにより、自動車リサイクル業者の皆様には、樹脂の材料リサイクルという新たな事業が生まれるのではないのでしょうか。

—— それは我々としては理想的なお話ですね。今「樹脂の材料リサイクル」という言葉が出ましたが、その点について自動車メーカーはどのような取り組みをされているのでしょうか？

丸山 自動車メーカーは、樹脂部品の単一素材化や易解体設計等に取り組んでおり、今後ともこのような取り組みを継続していきます。この活動は、日本自動車工業会の中でメーカー協調の取り組みとして実施しています。自技会では、再生樹脂活用拡大に向け、アカデミックなまとめを通じて提案していきたいと考えており、ELV機構の方にも自技会の活動に参加していただきたいと考えています。実は、昨年の自技会リサイクル技術部門委員会では、永田プロダクツ^{（※）}を訪問させていただいたんです。

（※）永田プロダクツ：広報部会長永田が代表取締役を務める解体事業所（山形県）

—— ここまで樹脂リサイクルについてお伺いしてきましたが、ずばり、樹脂リサイクルに将来性はあるのでしょうか？

丸山 ここ近年、自動車における樹脂の使用率は軽量化の面でも相当上がってきており、確かに新たなビジネスとしての可能性はあると思います。

しかし、そういった中で皆様が樹脂を取り外ししない理由は、きっと労力の割にはペイしないということと回収コストの問題もあるでしょう。

現状、樹脂の取り外しをされている業者は、破碎機で破碎処理をした後にフレコンに入れて運搬するといったやり方をされています。業者によっては、最後に残されているのは樹脂ということで、広範囲から樹脂を収集し始めている業者も出てきました。

—— 最後に我々リサイクル業者へ向けてメッセージをお願いします。

丸山 自動車メーカーが車両に使うさまざまな再生素材は、リサイクル業者である皆様のところが入り口となります。樹脂部品もしかりです。すべて使用済自動車が起点となっているように思います。しかしながら自動車メーカーとしては、回収・物流といったコスト面に関してはタッチできません。皆様におかれましては、樹脂リサイクルを新たなビジネスの活路として捉え、取り組まれてはいかがでしょうか。自技会からは、画期的な回収や物流面でのコストなどの提案はできませんが、再生樹脂の拡大に向けた各種取り組みの紹介はできると考えています。今後とも、ELV機構およびELV機構会員の皆様との交流を図っていければ幸いです。



今号より始まった広報部会インタビュー企画「我々の未来をどう創るか」、いかがだったでしょうか。

第1回目となる今回は、自動車技術会リサイクル技術部門委員会より、丸山慎一氏をお迎えし、主に樹脂リサイクルを中心としたお話を伺いました。読者の皆様のご参考になれば幸いです。

▼自動車技術会ホームページ
<http://www.jsae.or.jp/>



大阪会場(2月25日)受講者アンケート結果発表

前号にて、2月25日の大阪会場(エル・おおさか/大阪府大阪市)での「自動車リサイクル士 新制度移行特別認定講習会」について参加者数などの概要をお伝えしましたが、今号では、当日受講者の皆様にご回答いただいたアンケートの集計結果を以下のとおり発表します。

実施概要

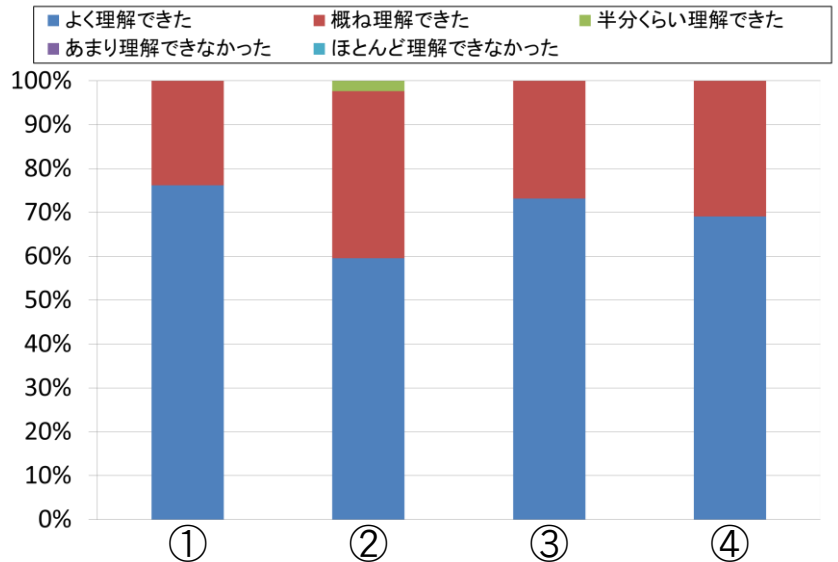
- 実施日 2016年2月25日(木) (講習会当日)
- 回答数 42 (対象:講習会受講者 全42名)

集計結果

各講習内容

	内容
①	自動車リサイクルの実務 (講師:有原)
②	自動車メーカーの取り組み (講師:伊地知)
③	自動車リサイクル業界の取り組み (講師:佐々木)
④	マネジメント、その他 (講師:酒井)

各講習の理解度



講習に関する意見(抜粋) ※原文ママ

非認定全部利用に関して、確り説明ができる様になりたいので、明確な基準や、法的根拠、ガイドラインなどをまとめてもらいたい。自動車リサイクル士として、本流の自り法の外、認定全部利用、非認定全部利用に関しても、きちんと知識を身につけておきたい。

- ・自動車リサイクルの実務:差し替え・追補資料を用いての説明が分かり易く、又、各担当者への周知にも役立つ素晴らしい資料を頂きました。ありがとうございます。
- ・自動車メーカーの取り組み:易解体についての取り組みについて、解体業者も応えて取り組むべきだと感じました。新技術についても分かり易く、大変勉強になりました。

前回の復習をかねての説明でよかった。もう一度リサイクルについて見直すきっかけになった。いろんな情報を知る事ができてよかったです。

TOYOTA L&Fカスタマーズセンター梅原様の講義は良かったと思いますし、会社でも実践していきたい。講習会に参加出来て良かったです。

- ・自動車リサイクルの実務:日々の業務では、あまり係わらない(事務方が行なう為)実務の流れが良く理解でき、今後は、もう一步進めてスキルアップしていきたい。
- ・マネジメント:トヨタ流4S+1S+サカイ氏の1S(信用)=6Sを私流と致します。

経産省受託JIS開発事業、平成27年度分が終了

ELV機構では、平成27年度経済産業省高機能JIS等整備事業「安全・安心な社会形成に資するJIS開発」事業について、「自動車補修用リサイクル部品のラベリング規格に関するJIS開発」というテーマで平成27年度と平成28年度の2か年計画の事業（以下「JIS開発事業」）として受託していますが、去る2月末日をもって、平成27年度分の事業が終了しましたので、事業概要と今年度の実績を以下のとおり報告します。

ラベリング規格開発の狙い

安全・安心な
リサイクル部品
の活用を促進

- ①提供される情報について共通化が図られ、適正なりサイクル部品を自動車ユーザーが安心して使用できるようになります。
- ②リサイクル部品の供給者情報が入るので、万が一不具合が発生しても自動車ユーザーは安心して対処できます。
- ③リサイクル部品を回収した車両情報が提供されるため、後から出たリコール通知にも的確な対応が可能となります。
- ④違法に供給されたりサイクル部品との差別化が図れることにより、盗難防止および違法解体ヤードの抑制につながることを期待されます。

実施体制

ELV機構の長谷川副代表理事を責任者として、リユース部品部会、トラック・バス部会と連携を取る形で、「原案作成委員会」と「原案作成WG」を設置して事業を実施しました。

■**原案作成委員会**：原案作成WGで議論された規格策定の方向性の確認や原案に対するコンセンサスを得るため、JIS策定の際に必ず必要となるものであり、生産者（解体事業者等）、使用・消費者および販売者（元気ネット、中販連、日整連等）および中立者（経産省、環境省、国交省、自工会、部工会、規格協会等）で構成されています。委員長は山口大学の阿部准教授。 [本年度2回実施]

■**原案作成WG**：業界関係者の意見集約と規格策定の方向性・規格原案等の検討を行うためのものでELV機構、日本自動車リサイクル部品協議会、日本トラックリファインパーツ協会、RUMアライアンス、規格協会のほか、リサイクル部品の流通を担う在庫共有ネットワークグループのNGP、JARAで構成されています。委員長は熊本大学の外川教授。 [本年度6回実施]

平成27年度活動報告

※2か年計画のため平成28年度も事業継続

【ラベルイメージ】



- ①リサイクル部品について、解体事業者が管理している項目の収集および整備事業者が必要としている情報を調査し、両者が共通で必要としている情報項目を抽出して整理を行いました。
- ②リコール部品の確認方法の検討を行うとともに、リコール対応に必要な項目の調査を行いました。
- ③識別・表示方法については、整備事業者での現状実態調査等により、情報収集を行うとともに、JISマークのあり方の検討およびリサイクル部品に対する表示方法の検討を行いました。

ラベルにJISマークを付けることを想定し検討を進めていましたが、調査を進めるうちに「JISマークは製品に表示するものであり、ラベルにはJISマークは付けられない」ことが判明しました。このため、平成28年度にどのような表示で認知度を高めるか、ラベルの取り扱い、部品に貼付するかどうかも含めて検討していきます。（左図はあくまでも現時点でのイメージ）

コンピューター基板／エアバッグカプラー／センサー類の3品目を年度内2回に分けて集荷

平成27年度共同出荷事業、全2回の集荷が完了

平成27年度貴金属類の共同出荷事業について、全2回（昨年10月と本年2月の2回）の集荷が完了し、回収重量などの実績データがまとまりましたので、以下のとおり報告します。分析結果は、昨年10月集荷分のみ分析完了しており、本年2月集荷分は現在分析中で本年7月頃完了予定です。

参加事業所数・回収重量

	参加事業所数 [社]	回収重量 [kg]				合計
		基板（無）	基板（有）	A Bカプラー	センサー類	
	230	14,432.5	1,652.5	2,395.5	9,532.5	28,013.0
10月	135	8,236.5	901.5	1,173.5	4,901.0	15,212.5
2月	152	6,196.0	751.0	1,222.0	4,631.5	12,800.5

【昨年度事業との比較】

- 参加事業所数 昨年度227社、本年度230社 → 3社増。
※表中1行目の数値は、10月と2月の両方に参加した事業所を1としてカウントしている（二重でカウントしていない）ので、10月と2月の合計値ではありません。
- 回収重量 コンピューター基板（アルミ有）以外はすべて増。以下は昨年度の重量。
□基板（無） 12,757.0kg □基板（有） 1,927.0kg
□A Bカプラー 1,722.0kg □センサー類 4,083.0kg …… 合計 20,489.0kg

分析結果 ※以下の数値は10月集荷分のみ、2月集荷分は現在分析中（本年7月頃完了予定）

	基板（無）	基板（有）	A Bカプラー	センサー類	合計
受入重量 [kg]	8,226.0	900.5	1,135.0	4,902.0	15,163.5
A u品位 [g/t]	119.0	69.0	106.0	0.0	
含有量 [g]	978.9	62.1	120.3	0.0	1,161.3
A g品位 [g/t]	815.0	706.0	91.0	81.0	
含有量 [g]	6,704.2	635.8	103.3	397.1	7,840.4
P d品位 [g/t]	94.0	73.0	0.0	10.0	
含有量 [g]	773.2	65.7	0.0	49.0	887.9
C u品位 [%]	18.1	17.5	17.1	0.0	
含有量 [kg]	1,488.9	157.6	194.1	0.0	1,840.6
P t品位 [g/t]	0.0	0.0	0.0	273.0	
含有量 [g]	0.0	0.0	0.0	1,338.2	1,338.2

【昨年度事業との比較】

- コンピューター基板 昨年度から大きな変化なし。安定した品位と言える。
- エアバッグカプラー A gのみ約3倍近く増。他は大きな変化なし。以下は昨年度の数値。
□A g品位 31.0g/t
- センサー類 検出された元素はすべて増。全体的に高品位化。以下は昨年度の数値。
□A g品位 検出なし □P d品位 8.0g/t □P t品位 229.0g/t

NAK・リ協との情報交換を実施

日本オートオークション協議会（以下「NAK」）と日本自動車リサイクル部品協議会（以下「リ協」）とELV機構の三者情報交換会が、3月10日、NAK会議室（東京都中央区）にて開催されました。

これまでNAKとELV機構は、現状の課題などについて意見を交わす場として定期的に情報交換会を開催していましたが、2014年7月の第3回以降、開催が途絶えていました。今回、この情報交換会を再開するとともに、新たにリ協からの参加を得て、より充実した情報交換・認識共有を目指しています。

これまでの開催実績

- 第1回：2012年12月 6日 開催
- 第2回：2013年 3月 7日 開催
- 第3回：2014年 7月28日 開催

当日は、逆有償を想定した対策に関する提案やオークション会場における問題点に対する意見交換などが行われました。今後、この情報交換会は半年に1回を目安に定期開催するものとし、NAKとリ協とELV機構の三者が持ち回りで幹事を務めます。

2つの検討会にELV機構が出席

以前ニュースレターでも取り上げたとおり、産構審・中環審合同会議での議論を経てとりまとめられた「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」の内容を受け、「情報発信の在り方等に関する検討会」と「自動車リサイクルに係る3Rの推進・質の向上に向けた検討会」といった2つの検討会が発足しており、それぞれにELV機構役員が委員として出席しています。現在の各検討会の状況について、以下のとおり報告します。

情報発信の在り方等に関する検討会

直近では3月29日に第3回が開催され、酒井副代表理事が委員として出席しました。内容としては、引取業者におけるユーザー等への情報発信などについて議論が行われました。

次回（第4回）は、5月31日に開催される予定です。

自動車リサイクルに係る3Rの推進・質の向上に向けた検討会

直近では3月2日に第2回が開催され、木内総務部会長が委員として出席しました。内容としては、今後の検討の方向性などについて議論が行われました。

次回（第3回）は、5月（日程未定）に開催される予定です。

中部・北陸ブロック、全体会議を開催



3月19日、ウインクあいち（愛知県名古屋市）にて、「中部・北陸ブロック全体会議」が開催されました。今回は、ELV機構の活動を理解していただくためのよい機会として、入会希望の会員外の方に対しても門戸を開き、団体長6名の他、会員6名とオブザーバー（入会希望者）3名の参加となりました。

本部からは、河村代表理事、酒井副代表理事が出席し、自動車リサイクル士制度、共同出荷事業、JIS開発事業、自り法見直し審議会、各部会についての説明があり、活発な質疑応答も行われました。オブザーバーからは、「初めて機構の会議に参加しました。日々の活動に対してご尽力いただいていることを感じました」との意見がありました。

来期ブロック長には岡野功氏（三重県）、副ブロック長には新井博貴氏（愛知県）が任命され、次年度の活動計画としてELV機構の自動車リサイクル士制度や共同出荷事業を積極的に活用していくこと、適正に処理していくこと、自動車リサイクル業として一般に周知してもらえるよう活動していく等の発表がありました。

最後に、河村代表理事より「年初より自動車業界トップや行政へ積極的にコンタクトを行っています。皆さんも業界に誇りをもって、互いに力を合わせ一枚岩となり、業界を大きく盛り上げていただきたい」といったお話がありました。

鉄スクラップ最新情報

■ 3月第4週(25日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供: 日刊市況通信社]



3月25日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	17,000 ~ 17,500	強含み
	南関東	17,000 ~ 17,500	強含み
名古屋		16,500 ~ 17,500	強含み
関西	大阪	16,500 ~ 18,000	強含み
	姫路	17,000 ~ 18,000	強含み

国内の鉄スクラップ相場は続伸、電炉各社が追加工値上げ

東京製鉄など国内電炉各社の23日からの鉄スクラップ購入価格の値上げ改定が広がり、国内の相場は500~1,000円どころ続伸する動きとなった。

東京製鉄は今月に入り、8日から岡山・高松を500円、15日から岡山・九州・高松を500円、17日から全拠点500円値上げし、23日からは岡山・九州・高松を1,000円、田原・宇都宮を500円値上げし、この動きが国内市場全体に波及。23日からは、西日本で1,000円どころ、中部以東で新潟や関東の一部を除き500円どころ上伸した。

国内相場が続伸した最大の要因は、引き続き堅調な輸出市場の動きだ。前週の商談でH2輸出価格は1トあたりFOB20,000円前後へ上伸。その後も海外ミルからの引き合いが続いており、現在も新規輸出商談が進められている。このため関東湾岸のH2浜値は18,000~18,500円と電炉買値を上回る水準だ。年度末とはいえ市中発生に勢いがいない中、海外需要の盛り上がりさらに国内需給を引き締める状況となっている。

【関東地区】 浜値を意識した電炉筋の値上げ散発

関東地区では、電炉筋の鉄スクラップ購入価格の値上げ改定が散発しており、強含みの相場推移となっている。輸出価格の続伸を受けて浜値が先行して値上がりしているため、湾岸周辺電炉を中心に浜値を意識した価格設定の動きが出ている。H2浜値は1トあたり18,500円中心。これに対しH2炉前実勢価格は17,000~17,500円中心で、浜値よりも1,000~1,500円安い状況。このため湾岸周辺電炉では、浜値を意識した価格改定も見られる。

【東海地区】 市況は2週間連続上げ後も強含み持続

名古屋地区の電炉メーカーは3月23日から一斉に購入価格一律500円方値上げしてH2炉前実勢価格は16,500~17,000円を中心に、上値17,500円どころとなっている。2月中旬からの上げ幅は東京製鉄・田原工場3回、計1,500円、地区電炉他社で3回(一部新断4回)、計1,500円がた。輸出の堅調感もあり、国内市況は3月19~21日の3連休明け直後の値上がりから、引続き強含み推移で3月終盤を迎えると見られる。

【関西地区】 輸出続伸背景になおも強含みの展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は強基調。2社の購入中断、さらに3月第5週から一部電炉筋が炉休を予定していることが重なり、4月に向けて需要は縮小基調にある。しかし韓国向け輸出価格の続伸によって、輸出との差が再び広がっている。このため、域内相場も堅調感を保ったまま月末へ向かう公算が大きい。H2炉前実勢価格は16,500~17,500円、一部上値18,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は17,000~18,000円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、3月24日午後時点のもの)

行事予定

4月の主な予定

4月6日(水)

● 自動車リサイクル士 第1回 カリキュラムWG

4月8日(金)

● 第1回 三役会

4月12日(火)

● 第1回 理事会

4月13日(水)

● 第1回 広報部会

4月18日(月)

● JIS開発事業 第1回 原案作成WG

4月20日(水)

● 第1回 資源循環委員会



お知らせ

◆会員数(2016年3月末日時点)

総数 594社 / 会員 566社、賛助会員 28社

◆ホームページリニューアルのお知らせ

以前からお伝えしていたとおり、2016年4月1日よりELV機構のホームページがリニューアルします。皆様、新しいELV機構のホームページをぜひチェックしてみてください！



ELV機構ホームページ
<http://www.elv.or.jp/>

◆Facebook開設のお知らせ

ホームページがリニューアルと合わせてELV機構のFacebookを開設しました。ELV機構がどのような活動をしているのか、出席している会議の様子などタイムリーにアップしていく予定なので、こちらもぜひチェックしてみてください！



ELV機構Facebook
<https://www.facebook.com/JAERA.office/>

編集後記

年度末を迎えるにあたり、この一年、我が広報部会も滞りなく業務遂行をすることができました。これもひとえにスタッフ、事務局の努力の賜といえます。ありていな言い方ですが、人間はひとりではできることなどたかが知れています。そこに集う人間の協力体制が仕事のクオリティを決定づけています。どんな難題も協力を惜しまない素晴らしきスタッフの皆様には、改めて感謝申し上げる次第です。▼さて、今号からシリーズ「我々の未来をどう創るか」が始まりました。第一弾は、素材をテーマに自動車技術会より丸山慎一氏を招いてのインタビューをお送りします。特に自動車技術会が取り組みをされている樹脂リサイクルを中心に、その将来性を検証します。▼4月より、いよいよ機構のホームページがリニューアルされます。デザインも一新された見た目も若々しくなりました。また機構初となるFacebookも新たな試みとしてスタートします。試行錯誤の末、なんとか年度内に完成するに至りました。とはいえ、まだまだ改善の余地はあろうかと思えます。皆様のご意見、頂戴出来れば幸いです。

(広報部会 部会長 永田 則男)